

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造

基本事業 文化・歴史遺産の保存と継承

事業名 **江別市史編さん事業**

[0620]

部名	総務部	事業開始年度	平成7年度	実施計画事業認定	対象
課名	参事(市史行政資料担当)	事業終了年度	-年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
<p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市民</p>	<p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>新江別市史』発刊後、次のとおり事業を継続し、江別の歴史に対する関心や理解の促進に資する。 編さんで使用した資料の整理保存 資料のデータベース化と保管 販売と在庫管理 内容照会への対応、問い合わせの回答 普及活動 市史資料の継続的発掘と収集 市史に関する情報の発信</p>
<p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>多くの市民に江別の歴史に対する関心を持ってもらう 多くの市民に江別の歴史に対する理解を深めてもらう</p>	

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市民	人	123,537	123,054	122,568	122,564
対象指標2						
活動指標1	市史資料収集件数及び問合せ件数	件	2,021	2,224	1,779	2,000
活動指標2	『えべつ』の歴史』発行部数(累計)	部	500	500	500	500
成果指標1	『えべつ』の歴史』販売部数(累計)	部	225	100	109	300
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	3,894	3,877	3,570	3,941
正職員人件費(B)		千円	8,374	8,358	8,298	8,328
総事業費(A)+ (B)		千円	12,268	12,235	11,868	12,269

費用内訳	
21年度	報酬 3,168千円、需用費 392千円、役務費 11千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	16年度は、江別の市制施行50周年の節目であり、先史から今日までの足どりを検証し、体系づけ、編さん、刊行することで、ここからの飛躍と市民生活の充実を期するため当事業を開始した。	事業を取り巻く環境変化	江別市では市民協働によるまちづくりをめざしており、市民のふるさと意識もより高まっていくものと思われる。
--------	--	-------------	---

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

まちの未来を考える指針とすべく、今日までの江別の歩みを記録に残し、発信することは公共の利益に適い、また、行政でなければ収集・蓄積できない資料もあることから、行政が中心となって行うべきものである。

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

収集した記録や資料を「市史」としてまとめ、刊行することで、多くの市民が江別の歩みに親しむことができ、江別に対する認識が深まる。また、まちづくりを考える基礎資料となる。

(3) 計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

民間団体の歴史の発掘作業や古写真のデジタル化など、市史に対する関心の高まりが見られる。

(4) 成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

刊行後も市民の江別に対する認識の深化に応え、継続的な資料の収集、研究、発信を進めていくことで、成果が向上する可能性はある。

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算 + 所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

最小限の人員と予算で行っており、また、刊行年度を過ぎれば必然的にコストは下がるものである。